



2022年09月09日発行（通算第107号）

連絡先 〒145-0061 大田区石川町1-26-8

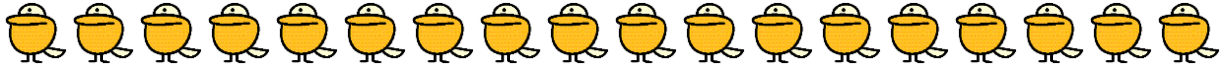
発行 呑川の会 代表 高橋 光夫

呑川の会 e-mail: [mitsuo.takahashi@nifty.com](mailto:mitsuo.takahashi@nifty.com)

呑川の会 HP <http://nomigawanokai.net/>

高橋会員 HP <http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>

# の み が わ



## 初めての「リンリン呑川ツアー」に参加して

記: 橋本 文興

最近レンタル自転車(電動)の基地が増え需要が伸びていて、携帯で予約や料金精算が出来、バッテリーの残量も把握でき、乗り捨てが可能(コンビニ等へ)、料金も手頃で、使い慣れれば便利だそう。今回は「ノミガワスタジオ」企画リンリン呑川見学会の提案がありガイドいたしました。初めての呑川上流から河口まで自転車でご案内することになり、連日猛暑が続く暑さが心配され、早めのスタートを計画。途中の説明を含め予定時間内に河口まで行けるか心配でした。

7月24日、8時に工大橋に集合したメンバーは7名(参加者4名と高橋、安岡、橋本)、工大橋のレンタル自転車3台は予約があり1台不足でしたが近くの緑ヶ丘駅で調達しましたが、呑川会員は無電動サイクルです。スタートにあたり高橋代表から挨拶と呑川が蓋がけされた経緯等説明を受ける。(代表はここで帰宅)

工大橋地下道を抜け、蓋がけされた呑川上流を見てから、6名でスタート。

呑川の開放部で水質が澄んでいることを確認して下流へ。島畑橋で藻が盛り上がっているのを見て、ユスリカ対策の捕虫装置の説明をする。石川台中学付近兩岸の桜並木を見て石川橋へ移動し、多摩川への「放流口」を見学。この完成後大規模洪水が起きていないかと、2か所の邪魔板(流量調整板)について質問ありました。

道々橋から下流の河床の違いを説明。所々にある岩、植栽(ツルヨシ)は生き物に良いのではと。久が原二丁目広場でサインを見て生物の豊かなことを説明。今回生物はあまり見られなかった。



「霊山橋付近」



仲之橋、付近の自然河床は関心を持たれた様でした。霊山橋で松本会員が参加、途中ノミガワスタジオで小休止する。「ノミガワスタジオ内部(わたのみ販売有)」

堤方橋から右岸を下り、太平橋で「スカム抑制装置」を見学して、左岸に渡り「高濃度酸素酸水の

装置」を見学。効果について質問あり、テスト段階で最終報告は受けていない旨説明した。この日、西蒲田付近水質は臭くもなく澄んでいた。



「弾正橋にて」



「参加者・河口にて」 11時30分河口に着く。

帰りは旧呑川を遡り蒲田へ。走行距離 約 12km、全員無事帰還して予定通り 12 時菖蒲橋で解散。事前の説明はなされたが、質疑の時間がもう少しあればと思いました。今回は自転車ツアーに参加された方から参加費を戴いたので会として「わたのみ」を各自に一部贈呈しました。リンリンツアーは少人数で、時期は秋口か春がいいのではと思いました。

以上

## 呑川の上流を歩く

記：塚本文子

「呑川の上流を歩く」と題して友人 5 人で 5 月 6 日にウォーキングを実施しました。ウォーキングが主な目的ではあるものの、せっかく呑川を歩くのであれば「わたしたちの都市河川 呑川」を勉強して、少しでも友人に伝えたいと考えました。

簡単なレジメを作り、地図（P 14）をコピーし主な源流をマーカーで道をなぞり、説明を付け配布しました。

大岡山駅に集合し、東工大の中に入ると工事中で立ち入り禁止の場所ばかりでうろうろしつつも何とか通り抜けすることができました。残念ながらその日は富士山を見ることができませんでしたが、ひょうたん池を通過してトンネルを抜け工大橋のスタート地点にようやくたどり着きました。

そこで呑川の水がどこから来ているのか、元の流れはどこから来ているのかなど話しました。大田区に何年も住んでいるけれど知らなかったという人や、呑川の流れの出口も初めて見たという人もいました。

そこから九品仏流れをひたすら浄真寺（九品仏）に向かって歩きました。左右で目黒区と世田谷区に分かれていること、では歩いている緑道はどちらの区なのか、真ん中で分かれるのか、植物の管理は別々にするのかなどなど話はいつでも盛り上がります。緑道沿いのお宅の手入れの行き届いた花を眺めたり、植え込みの珍しい花の名まえを調べたり、あきることなく歩き続けることができました。

ねこじゃらし公園を通り、ぐるりと浄真寺のまわりを歩き、ようやくお寺に着いたのは集合から 2 時間も経っての事でした。浄真寺の新緑を眺めながら「秋にまた歩きたいね」などと話しながら解散となりました。

そして下見で歩いた柿の木坂流れの他、深沢流れ、駒沢流れ、洗足流れなどの支流も歩いてみたいと思っています。また呑川流域を歩く時は動植物の事を調べたり、呑川の歴史についても話ができたらと思います。そのためにも「わたしたちの都市河川 呑川」を大いに活用していきたいと思っています。



「呑川の会」当面の活動日程

(高橋 光夫)

\*「新型コロナウイルス」の影響で変更することがあります。ご注意ください。

<p>「呑川の会・定例会」 2022/9/14 (木) 13:30~16:30 「生活センター」講座室</p> <hr/> <p>*「世話人会」は9/8 10:00~12:00 「ふれあいはすめま」第1集会室</p>	<p>「呑川ネット・定例会」 2022/9/22 (木) 10:00~12:00 「生活センター」Gr活動室</p> <hr/> <p>コロナ対策で延期が続いています。 今回は開催出来るでしょうか・・・</p>
<p>「会報印刷・発送」 2022/9/9 (金) 13:00~ こらぼ大森「印刷室」</p> <hr/>	<p>「都立田園調布高等学校」 フィールドワーク 2022/10/5 芹が谷橋</p> <hr/> <p>*初めての高校生対象のガイドです。</p>
<p>「秋の都市河川ウォーク」(矢川) 2022/11/19 (土) (雨天の場合 11/20 実施)</p>	<p>集合: 10時 JR南武線「西国立」駅 解散: 南武線谷保駅 or JR中央線国立駅</p>

# 四季咲きのネムノキ 数年ぶりのハッと驚く大満開！！

(山下橋付近)

記：高橋 光夫



(上写真：2022年6月に咲いた四季咲きのネムノキ)

雪が谷にある「山下橋」、その付近の桜並木に折り重なるように「ネムノキ」があります。ふだんは目立たない木ですが、桜と比べるとちょっと背が高い「中高木」の種類に属する木で、今年（2022年）は上の写真のように、6月に突然満開の花を咲かせました。



ところが、7月には花はすっかり消え寂しくなりました。

しかし、8月に入ると突然、再び満開の花を咲かせ、まさにこれが有名な「四季咲きのネムノキ」の真骨頂でした。再び咲いたネムノキは、毛のように見える独特の花びらが薄いピンクで、美しさバツグンです。湿地帯に咲くことも有名で、呑川沿いに咲くことも納得出来ます。

(左写真：2022年8月に再び咲く)

## 久原小学校呑川探検記

令和4年6月2日（木）記：森 巖

久原小学校、3年生、153名の呑川ウォークを6月2日午前中、実施しました。自分たちの住んでいる大田区の様子を知るという総合学習の一環として、毎年久原小学校で行われている呑川学習を今年も実施しました。今回は、3年生153名、保護者5名、スクールサポーターと先生6名、呑川の会15名で、総勢179名の大人数でした。

呑川の会会員も直前に、2名が参加できなくなりましたが、なんとか153名の児童を、10



班に分け、1班を15～16名とし、呑川の会会員がガイド役として引率しました。当日は、6月ですが、猛暑となりマスクをして約3時間のウォークは、子供達もかなりきつかったと思います。私の万歩計も2万歩を超えていました。会員の中には、熱中症にならないようにと、途中ペットボトルを何本も買って、子供達に水分補給していました。午前9時に学校をスタートし、12時過ぎまでの行程でしたが、全員無事に事故もなく、帰って来る

ことができ本当に良かったです。コロナ対策もしながらの準備、実施となり、先生、保護者、会員、皆さまのご協力に改めて感謝します。



さてコースは、学校～長栄橋～池上橋～妙見橋（池上会館トイレ）～堤方橋～太平橋、折り返しという約5.4kmのコースでした。北の橋～池上橋（150m）で、流速測定を行いました。長栄橋と池上橋で工事中でしたが、なんとか木片の浮きを浮かべてタイム測定はできました。この辺りでは、コサギ、ハクセキレイ、カワウに出会い、本門寺辺りでは、コイ、ミシシッピーアカ

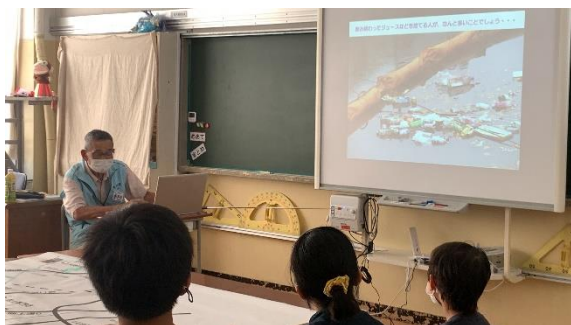
ミミガメを見て、子供達も喜んでいました。途中、呑川の案内板や、六郷用水の案内版、ジェットストリーマーなどを見て興味を示していましたが、帰り道は子供達も皆バテバテでした。会員の中には、用意した写真などを使い、紙芝居風に説明していましたが、私はほとんど何もできずに、悔しい思いをし、ガイドの難しさを改めて実感しました。でも子供達と一緒に呑川を歩き、同じ時間を共有できたことは、お互いとても貴重な体験だと思います。私の子供3人も、女塚小学校で呑川学習の思い出があるようです。地元の呑川のことを考えるきっかけになれば、うれしいです。これからも地域全体で、呑川のことに関心を持ってもらえるように、お手伝いができればと思います。改めて、小学校の呑川ウォーク、学習の大切さを感じました。なお、この後、先生方から「わたのみ」を5冊購入いただきました。

写真は、上：折り返し点、太平橋児童公園 下：帰り道、木陰で休憩。

## 池上小学校わくわくサマースクール「ノミガワ博士になろう！～呑川探検～」

2022年8月2日（火）記：安岡 達郎

8月2日（火）池上小学校の「わくわくサマースクール」にて「ノミガワ博士になろう！～呑川探検～」と題して、呑川に関する講座が行われ、呑川の会の白石、安岡、橋本、森、松本の5人がサポートしました。講座の企画、構成、準備、進行は、池上小学校の生徒保護者の今井さんと佐藤さんが行いました。



南校舎3階の6年2組の教室で講座を行い、隣の6年1組では呑川の会が作成した呑川の昔や現在の様子、生き物などの写真パネルを展示しました。1コマ目（13:00～14:30）は5・6年生の10名（1名欠席）、2コマ目の（14:40～16:10）は3・4年12名（8名欠席）が新型コロナのまだ収まらない中、参加してくれました。

参加者の2人に一題「お題」という呑川に関するクイズを受付時に渡し、講座の中で二人で相談したり、プレゼンテーションを聴いたり（写真①）、パネルを見たり、呑川の会のスタッフに質問したりする企画は、「自分たちで考えて、問題を解決していく」という大変貴重な体験をする学習となりました。

また参加者や家族が撮った写真を持ち寄って、「巨大マップ」を作成する企画も実施しま



した。90分の限られた時間では、マップを完成させるには至りませんでしたでしたが、今井さん・佐藤さんの講座のフォローアップにて、後日、見事なマップが完成し、学校の廊下に展示されました。（写真②）

参加者全員（欠席者にも）に、呑川の会特製のペーパークラフト「羽ばたく呑川のカワセミ」をお土産に差し上げました。今井さんと佐藤さんの企画構成、事前準備、当日のMC進行、コロナ対策、フォローアップが、この講座をレベルの高いものに

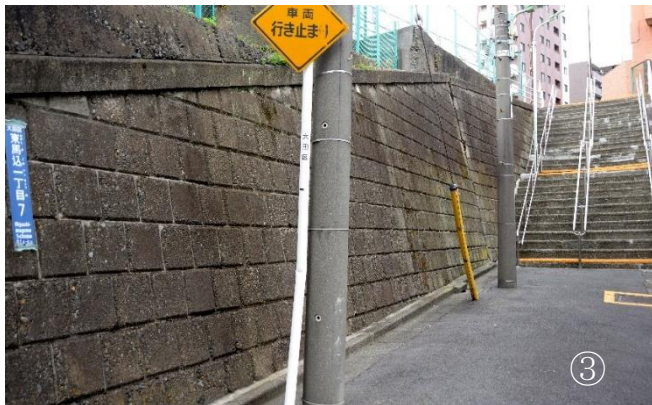
仕上げました。ありがとうございました。今後も、是非このような企画のお手伝いをさせて頂きたいと思います。また、他の学校にも、水平展開できたらと思います。

山王大森テニスクラブ窪地池から池上通りの六郷用水までの流れ跡は、「流れ考 25」で案内しましたが、今回は距離も長く、池尻川の谷を形成している本流の源流付近を探りました。



スタートは地下鉄馬込駅近くの第二京浜国道五反田寄りに橋が架かっている下に降りて二国を潜り、登坂の一つ目の四つ角の先が池尻川の源流地点の一つで、片側の電柱が道路側に出っ張っている①。内川の源流と丘で背中

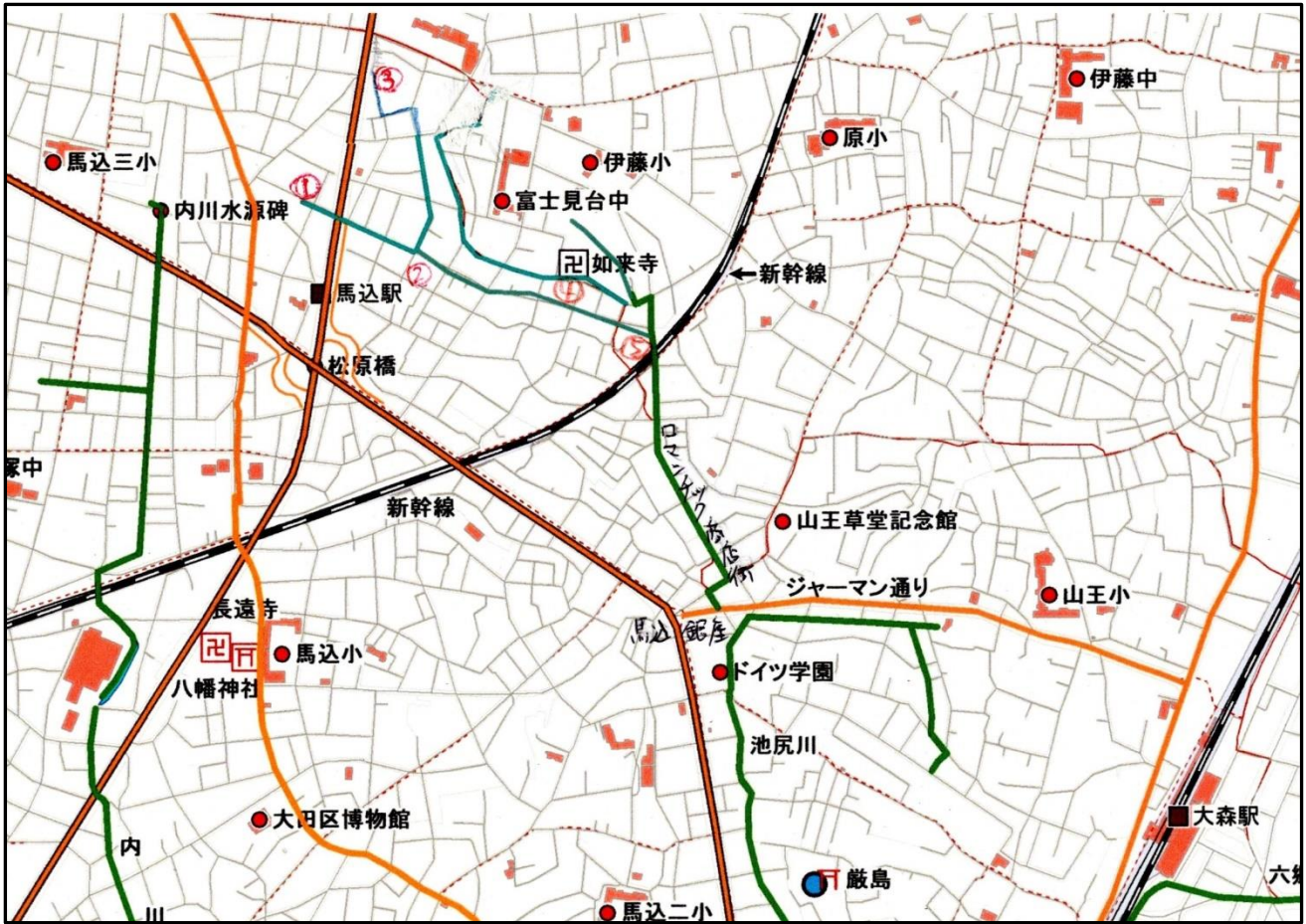
合わせの場所です。道路右側をゆるく真っすぐ下って行き、左から最源流からの流れが流入していた四つ角を曲がる②。谷筋の最深部の谷頭は第二京浜まで暗渠を遡ることが出来、最源流部といえる③。この辺りは、かつて篠谷と呼ぶ農村で、谷垂との字



名がある立会川へと続く分水嶺(品川道)です。そのすぐそばに品川区境の大仏で有名な如来寺のある丘筋に沿う谷も流れ跡で、山門前で左の谷筋流れと合流します④。そのすぐ先で①と③からの本流流れと合流して、JR 高架橋下を潜る⑤。そこからレトロな山王ロマンチック商店街の広い谷筋を緩やかに下り、蘇峰公園を通る区界の西大井本通りを右折して、ジャーマン通りと環

七通りの馬込銀座に出る。





**写真上**

珍しい「ひれなが錦鯉」です。  
7月22日池上地区にて、田代さんが撮影しました。

**写真下**

これも珍しい「スッポンと  
ミシシッピー赤耳亀のツー・ショット  
です。  
6月20日池上の犬走り上にて。



**(編集後記)**

3年ぶりで、会報「のみがわ」編集を担当しました。いろいろ、難しい点もありましたが、なんとか出来ました。この会報を呑川沿いの掲示板に掲示して頂くのに、恥ずかしくない様に、今後も努力したいです。

記：工藤

